

平成8年9月19日
 群馬県立
 太田工業高等学校
 同窓会
 0276(45)4742

同窓会会員名簿を

平成九年十二月に発行

同窓会長 関 昌 三

記録的な猛暑の夏もようやく過ぎて、秋の気配が漂い始める頃に利根川水系ダムの貯水率の急激な低下による水不足、そしてO-157の食中毒事件と生活をする上での不安が続いておりましたが、同窓会会員の皆様には益々御健勝にて業務に御精励の事と御推察申し上げます。

扱て、第二十四号の同窓会会報でも一部を御案内しましたが「同窓会会員名簿」の発行については本部役員会及び常任幹事会での検討を重ねた結果

- 一、発行業者……前回同様の(株)関西廣濟堂さんへ
- 一、発行日……平成九年十二月
- 一、仕様……B5判三六七頁
- 一、発行部数……一、六〇〇部
- 一、販売価格……三、八〇〇円

の内容に決定をし、先日七月十二日に正式に発注をいたしました。

本会報の発行スケジュールとの調整をして、第一回の調査が同時に御手元に届くよう現在進行中ですが、会員の皆様におかれましては、常任幹事の方々を中心として「クラス」の仲間の名簿を再チェックしていただきまして、より精度の高い会員名簿の発行に御協力をお願いいたします。

母校においては、四月から新任の今野校長先生をして尾池教頭先生を御迎えをし、更に情熱を持ち後輩達の指導に日夜奮闘されておられる感謝の気持ちで一杯ですが、我々同窓会本部役員会も、E・十五期東電勤務の石井 昭さんを書記として迎えた計十名の新体制にて同窓会活動の活発化、そして充実化を目指して努力をしておりますので、会員皆様の御指導・御協力を御願ひいたしまして、同窓会会報第二十五号発行に際しての御挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

校長 今野 秀 克

同窓会会員の皆様こんにちは。私は、この度の人事移動で県教育委員会学校指導課から赴任してまいりました。本校は、県下でも有数の施設・設備に恵まれたすばらしい教育環境にあり、さらに、本校草創期の建学の志に燃えた先輩諸兄が築かれたよき伝統が生きておられます。

また、前任者の若林校長先生は、楽しく働きがいのある生き生きとした学校づくりを掲げ、部活動の振興をはじめ、数々の成果を上げられました。こうした本校のよき伝統の継承と前任校長の成果をさらに伸張されることが大切であると考えております。

同窓会の皆様には、平素から、本校の充実・発展のために御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。赴任以来、何度か同窓会役員会に同席させていただきました。関会長をはじめ役員の皆様の母校への思いや同窓会活動充実への御尽力を大変ありがたく、また、心強く思っております。

さて、本校の近況についてであります。近年の産業界の動向により、先端的な内容を取り入れる

など、学習内容もかなり変化してまいりました。さらに資格取得の充実など、生徒の日頃の学習成果は、産業界教育フェアにおいても高く評価されております。

また、部活動においても、県高校総体で優勝とまでいかないものの、ベスト4、ベスト8に入る種目も増えるなど、生徒と先生方が一体となって努力しているところであります。

こうした教育活動の一方、御案内のように、本県においても、教育改革が様々な形で進行中であり、本校も、社会の変化や生徒の多様な実態に適切に対応するよう改善を図ることが急務となっております。平成九年度より、電気科二学級のうち、一学級を減ずることにいたしました。このことは、中学卒業生数の大幅な減少傾向という状況の中でやむを得ないことであり、今後は、本校の質的充実に向けて一層の努力が必要であることを痛感しております。

現在、高校教育は、新しい教育のシステムを模索しています。本校も、魅力ある専門高校として、地域に一層信頼されるよう新たな改善に向けて、積極的に努力していく所存であります。今後とも御支援と御協力をお願い申し上げます。

現在、高校教育は、新しい教育のシステムを模索しています。本校も、魅力ある専門高校として、地域に一層信頼されるよう新たな改善に向けて、積極的に努力していく所存であります。今後とも御支援と御協力をお願い申し上げます。

太田工業に赴任して

教頭 尾池 康 雄

同窓会会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。日頃は母校の発展・充実に惜しみないご支援・ご協力いただきまことに、衷心より感謝申し上げます。

今年度の人事移動により、県立桐生工業高等学校より教頭として赴任いたしました。もとより微力ではございますが、本校のいっその発展に役立つよう一生懸命頑張るつもりでおります、よろしくお願いたします。

さて、今日を見れば、国際化や情報化・高齢化など、社会情勢は徐々に変わりつつあります。同時に、経済面等に於いてもバブルの後遺症や、円高による経済状況の厳しさ、それらに伴う生産工場の海外シフトなど、働く環境も変わりつつあるようです。日々、産業界で活躍されている同窓生の皆さんにはどんな変化にも対応され、いままですらに頑張るってほしいと思います。

ところで目を後輩たちに向けて見ますと、今年の太工は県総体で2年連続入場行進の優秀校に選ばれたり、陸上部やバスケット部、

バレー部などの活躍で県24位となりました。また、夏は昭和58年の再現かと思えるような野球部の活躍が見られました。初戦(2回戦)

吉井高校を11対4、3回戦高崎東を6対4で破って益々勢いにつき、4回戦今年の前評判の高かった桐生高校にも7対4で勝利をおさめました。準々決勝では高崎高校と打ち合い、惜しくも7対13で破れましたが、堂々とした試合でした。

スター的な選手のいないチームでしたが、チームワークと早朝より自らの課題を持って努力した結果が、実力以上の力を出させたのだと思います。仲間や後輩へ、改めて、努力と可能性、ということをお話してあげたいと思います。

部活動ばかり述べましたが、学習面でも産業界教育フェアや秋の工業祭、そして自らの進路などで今後頑張ってくれると思います。

話は変わりますが、バルセロナオリンピックで女子マラソンの有森選手が「あれが精一杯だった、自分で自分を褒めたい」と言った言葉が忘れられない。私は生徒たちの学校生活の3年間が、この様な気持ちで終わってくればと願っています。学校は、生徒たち自らが可能性を求める環境を用意してやること、と思えます。同窓会会

員の皆様には健康に留意され、これからも一層のご支援をお願いし、ご挨拶いたします。

在職二十五年を顧みて

前教頭 高 橋 二千雄



厳しい暑さが続いておりましたが、同窓会員の皆様には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

さて、私は、この度の年度末人事移動により安中実業高校に転勤致しました。昭和三十九年に新任教員として太田工業高校に勤務して以来通算二十五年間お世話になりました。三十二年間の在職期間の大半を太田工業高校で過ごしたわけであり、愛着の深さを表すとき、「第二の故郷」とか「第二の母校」という言い方をします。私の四半世紀はそのいづれでもなく、正に太田工業高校そのものであります。赴任当時は、旧内ヶ島校舎前の一・二二二号線は、だ舗装

されていませんでした。先輩教師が車で案内してくれました。もうもうと上がる車の砂煙の間に、あの男性的な三角形の体育館を見たとき、これから始まる教員生活への不安とともに心の底から沸き上がる興奮を覚えたような気がしました。技術革新の時代背景の下、県内において戦後初めて設立された県立工業高校であり、地域社会の期待は大きく、全校生徒・職員が他校に追いつき・追い越せの気概をもって一丸となつて邁進していった時代でありました。創立三年目のこの時期に赴任したことはその後の私にとって貴重な経験となりました。当時の太田市は、駅の南側はまだ開発がされてなく、畑や田圃が広がっていました。当時の太田市の人口は七万人程度でした。その後の目覚ましい技術革新による産業経済の発展とともに太田市は今日見るような北関東有数な工業都市に発展しました。そして、太田市の発展とともに太田工業高校は、名実ともに県下の実力校として高く評価されるようになりました。各種の資格取得や検定試験においても他校から太田工業高校に追いつき・追い越せと言われるようになったのです。また、部活動においても、陸上競技部、

軟式テニス部、バスケケットボール部等は常に県下のトップレベルにありました。中でも硬式野球部は創立三年目にして秋季県大会で準優勝するなどその後度々関東大会に出場し、昭和五十八年には念願の甲子園出場を果たしました。今年度は、全国高校野球選手権大会群馬大会においてベスト8に進出するなどその伝統は後輩達に引き継がれています。

さて、このような輝かしい歴史は同窓生の皆様のたゆまぬ努力と母校愛に支えられたものであり、衷心より感謝申し上げます。

時代の変遷とともに高校教育そのものも、また、高校生気質も大きく変わってきました。産業構造の変化は就業形態の変化を余儀なくさせるとともに、技術・技能に対する興味・関心や評価に一定の変化をもたらしています。しかし、明治以来、日本の産業を支えてきたものは優れた技術・技能であり、その担い手である工業高校の卒業生であります。どのように時代が変化しようとも工業高校卒業生が、小資源国日本の産業・文化の発展に果たす役割はいささかなりとも変わるものではありません。

微力ではありますが今後とも工業高校の充実・発展のために頑張

る所存であります。同窓生の皆様のごこれまでのご理解とご支援に感謝するとともに今後とも太田工業高校発展のためにご支援くださいますようお願いし併せて皆様のご健勝とご発展をお祈りして、転勤のあいさつと致します。



同窓会入会式

今年で五回目を迎えた、同窓会入会式が平成八年二月二十九日午後三時より、母校体育館で行われました。写真にてその光景を御紹介致します。

- その他の同窓会本部の大きな仕事には、次のものが挙げられます。
- 一、母校発展の為の支援活動
 - 二、常任幹事会の開催
 - 三、同窓会報の発行(年一回)
 - 四、節目毎の同窓会会員名簿発行
 - 五、同窓会入会式等……
- があります。機会をみて、同窓会報にて紹介していきたいと思えます。
- (菊地記)



時の流れと人生

第二期定M科

伊藤 重夫

今年も広島、長崎でのあの苦しかった五十一年前の事への反省と、撲滅の誓いが行なわれ暑い夏は終わろうとしています。

時の流れは早く、後ろを振り向くことすら出来なくなってきたような気がする。

すぎたことは終わりという人もいるが、ほんとうにそれでいいの

でしようか。「人生いかに生きるか」我々にとっては大きな問題です。

私も、ミシュランオカモトタイヤ(株)(前オカモト(株))に入社して三十数年がたちます。

太田工業卒業後、小さいながら自分の家を持つことが出来ました。そして会社では今、自分の子供と同じ年の子供と一緒に働いています。

これも時の流れなのかと思うと同時に「今の若いものは」と、何かにつけて考えさせられています。だが、この様な考え方は私が、私の先輩にもさせて来たことかもしれないことでもある。

でもタイヤを製造するという事では、考え方も、心も、行動も、一つにならなければなりません。人の命を乗せて走るタイヤを作るのに理屈はいりません。安全で、品質が良く、走行性のすぐれたものだけを作ることに集中する。これがミシュランタイヤの優れた技術を引き出してくれるものと確信しながら社内での研修なども行なっています。

新人類と言われた我々の時代、今は超新人類とも言うのでしようか。学校の授業の中にはパソコンはもとより、超ハイテクを駆使したものがあると聞いています。私も、今やその超ハイテクの時代の真っ只中にいる訳ですから、ただガムシヤラに目で、指で、体で自分のものとする様に頑張るしかないと思つてゐる昨今です。

でも、時代がどんなに進化しようとも失つていけないものは真心であります。

他人への思いやりを忘れずに、自分を大切にし、人間らしく生きよう、悔いのない一生を送ろうと考へれば考へるほど、必ず心を砕く問題であります。だから今、個人の生き方、生き方の質が鋭く問われ、また、真の障害教育が大きくなる。叫ばれているゆえんではないでしょうか。太田工業高校同窓会のみなさんは、それぞれの分野で立派に活躍されていると思ひますが、さらなる活躍を期待すると同時に私も頑張つて行きます。

出 会 い

第十六期M科 碓 氷 雅 之

私が太工へ入学したのは、昭和五十二年、今から十六年前の事です。私は、高校へ進学したら、何かクラブ活動をやるかと思つていました。それがラグビーとの出会ひでした。当時のラクビー部は創部三、四年目の出来てまだ日の浅い頃だったと記憶していますが、その練習の厳しさと云つたら、中学を卒業したばかりの私の想像をはるかに越えたきつい物でした。「夏のうだる暑さの中の練習」、「地獄の様な合宿」、「北風の中のランニングパス」、そして「関東大会出場」、今では皆なつかしい思い出です。

今から思うと、部活という一つの集団生活が、未熟だった少年の私を肉体的、精神的に成長させてくれたと言つても過言ではないでしょう。その陰にはお世話になつた先生方の御指導、あるいは先輩、後輩そして、同級生との出会ひを抜きには、考えられません。

あれから十六年、高校も卒業し、社会人となり、そして結婚、今では二人の子を持つ親となりました。高校生時代の三年間は、一日がともも永く感じ、早く大人になりました。

かつた毎日でした。卒業し、大人になつて今思うのは、十年がまたたく間に過ぎてしまふということ。私の子供も成長し、やがては高校生になる日が来ます。自分の子供には、たとえ毎日がつらくても、あるいは楽しい日々であつたとしても、何か思い出に残る高校時代を過ごしてほしいと思ひます。きつといつかは、振り返る日が来るでしょう……。

最後になりますが同窓生の皆様の今後益々の御活躍と御健康をお祈り申し上げます。

素敵な選択

第二十八期J科

岩 瀬 有 紀

太陽がギリギリ照り付ける暑い夏の日も、冷たい北風が吹き荒れる冬の日も、毎日自転車をこいで、田んぼの中の学校に通つていたのをついこの間のことのように感じます。月日が経つのは早いですね。私が太田工業を卒業して、もう四年半が過ぎました。

高校時代を振り返ってみると、いろいろな事が思い出されます。古い校舎での入学式ではハトが体育館内を飛び回り驚いたこと、電気や情報などの専門教科や実習で苦勞したこと、楽しかつた遠足や

修学旅行など、教え上げればきりがないほどですが、なんといつても一番は、たくさんの人に出会えたことです。三年間、一緒に過ごしたクラスメイトをはじめ、私達を暖かく見守つてくれた担任の先生や各教科の先生、そして先輩、後輩……。いろいろな人に出会えて、たくさんの事を学び、勉強だけでなく人間として少し成長できたような気がします。

卒業後は東京電力に入社しました。電気関係はあまり得意ではなかったのですが、なぜか電力会社に入つてしまいました。最初の頃は男の子に混じつて電柱に昇つたり、穴を掘つたりと、体力的にも精神的にも辛くて何度なく逃げようになりましたが、同期の仲間や先輩方、上司の方々に励まされ、なんとか乗り切ることができました。そして、このような事をくり返しながら少しずつ成長して現在に至つています。

最後になりますが、人は一人では生きていきません。たくさんの人と出会ひ、関わり合ひながら生活しているのです。これから先も数多くの出会ひがあると思ひますが、人と人とのつながりと電気を大切にして、がんばつていきたいと思ひます。

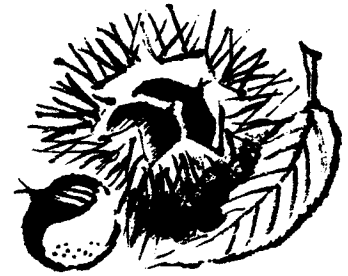


中国雑記

第九期E科 遠藤文久

太田に生まれ、地元で学び、地元企業に就職し社会人として二十三年が過ぎようとしています。これまで約四十年間、この地元を離れたことがなかった私ですが、業務の都合により、九十四年秋より海外駐在の命を受け、約一年間中国は東北地方の大連で仕事をしてまいりました。

大連の緯度は、日本の青森県とほぼ同じで、冬は少々寒いのですが夏は涼しく、年間を通して過ごしやすいく所です。また、多くの日本企業が進出しており、従って日本料理店なども数多くあり、衣食住の面では特に不満を感じることはありませんでした。治安も良いところから、同じ中国の中でも他の地域に比べ恵まれた環境にあると思われれます。さて、その中国ですが、一言で語ることは難しいのですが、国全体、或いは個人から、ものすごいパワーを感じる事ができます。一緒に働いた同僚、または会社以外の友人達と付き合っ共通して言えるのは、彼らは働く事の、或いは学ぶ事の目標を必ず持っている事です。その目標とはなんぞ



すかと聞くと、多くの人から、「いい暮らしがしたいから」と答えが帰ってきます。

住宅環境一つを見ても決して良い状況ではありません。それらを改善するための欲求が力となり、一丸となって、国全体が急速に発展を遂げているように思えます。ほんの一年の滞在でしたが、日本では経験できないことも体験し、苦勞もありましたが、とても良い経験ができたと私自身は思っています。

そして、今一度、今後の自分自身の目標をじっくり考えて見ようと思っっています。太工出身の方で海外で仕事をされている方も多いかと思っいます。ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

1995年(平成7年)年度 進路状況及び就職状況

進路状況(卒業生247名)

(3/21現在)

就職希望	132名(内、女5名)		進学希望	115名(内、女4名)	
	内定	未定		合格	未定・進学努力継続
学校紹介企業(県内)	109(内、女4)	0	4年制大学	11	11
学校紹介企業(県外)	8	0	短期大学	5	
公務員	4	0	短期大学校	11	
縁故就職	5(内、女1)	0	技術専門学校	20	
自営	6	0	専修(専門)学校	56(内、女4)	1

進路状況及び就職状況

三年生二百四十七名、うち就職希望者百三十二名(53%)、進学希望者百十五名(47%)です。

昨年は就職希望者56%、進学希望者44%。一昨年は就職希望者58%、進学希望者42%。少しずつ進学希望者が増えてきています。世の中の不況を見て、もう少し高度な勉強や技能を見つけてから就職しようとする人が多くなつて来ています。

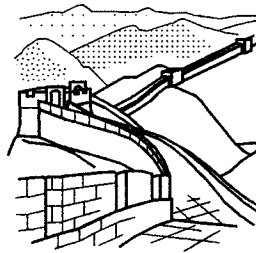
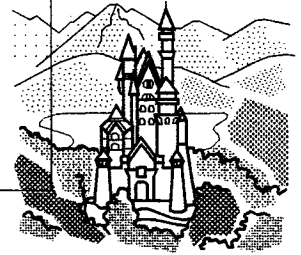
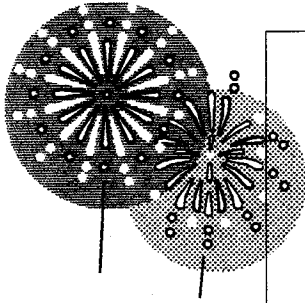
求人会社数は、四百五十社(群馬・二百十四社、関東・百三十七社、東京・七十八社、その他・二十一社)で、ここ数年減ってきています。「昨年・五百五十四社、一昨年・九百八十三社、一昨昨年・千三百六十社」。昨年度に比べて18.8%減少です。特に一部の大企業の採用中止や求人数の減が目立っています。幸い中小企業に採用意欲の高いところが多いのですが、今まで本校の生徒に人気の高かった会社の技術職は求人が減り、技能職の求人が多くなっています。就職希望者の内、二十四名が不合格となり再応募でも五名が不合格となりました。不況のために採用数が減り、競争率が高かったのが原因です。しかし、二月現在全員が内定を得ています。

第 12 回

工 業 祭

テーマ『地球に優しい技術』
—若き匠たちの夢工房—

日時 平成8年10月19日
10月20日



学 校 だ よ り

職員異動 平成八年四月

若林 勝利校長 伊東高へ

高橋二千雄教頭 安実高へ

松永 政雄先生(工化)伊工へ

桑原 忠先生(社会)太東高へ

阿佐美 斉先生(情報)新田暁高へ

諏訪 正浩先生(保体)渋川高へ

飯塚 貴夫先生(電気)新田暁高へ

新井 功先生(数学)藤岡高へ

高田 治先生(機械)館商工へ

鎌原 秀治先生(電気)渋川工へ

土屋 史子先生(司書)館商工へ

次の先生方は新任の先生です。

今野 秀克校長 県教委より

尾池 康雄教頭 桐工より

宮西 孝明先生(工化)伊工より

徳井 保先生(電気)高工より

前田 卓也先生(工化)前工より

泉 正雄先生(保体)前工より

菅野 泰先生(電気)新任

綾部 勝久先生(数学)新任

小林 智子先生(家庭)城西中より

村川 克行先生(情報)新田暁より

高畑 隆悦先生(機械)新任

大塚 雅恵先生(司書)桐工より

次の先生が退職されました。

小林治太郎先生(工化)

訃 報

平成六年一月～平成八年八月

菊地 仁(四十八年工化卒)

片亀 大助(平成四年電気卒)

小島 隆佳(五十九年工化卒)

大島 正敏(平成三年工化卒)

阿部 将之(平成三年工化卒)

寺崎 邦夫(四十一年電気卒)

辺見 治男(五十三年機械卒)

木村 直実(四十六年機械卒)

慎んでおくやみ申し上げます。

編 集 後 記

すず虫の音色を楽しみながら、
初めての同窓会報の編集を進めま
した。今回本文中に、同窓会本部
の大きな行事であります、新同窓
会員の入会式を紹介させて頂いた
きました。今年度同窓会に入会さ
れました新会員の皆様には、同窓
会発展の為、御協力を御願ひ申し
上げます。

同窓会会員名簿の発行準備も着々
と進み、来年末には発行出来る
と思います。同窓会員の情報交換に
お役立て下さい。今回寄稿を戴き
ました皆様方には、紙面をお借り
して、厚く御礼申し上げます。

(菊地記)